

広田遺跡ミュージアム館報

第3号

平成31年3月

南種子町広田遺跡ミュージアム

はじめに

広田遺跡ミュージアム館報の第3号を刊行いたしました。広田遺跡ミュージアムは、考古資料だけでなく、南種子の民俗や文献なども館活動の対象とする点に大きな特徴があります。平成31年度からは、国選択となった「種子島の盆踊」の記録調査事業を3年間かけて行う予定です。この事業によって、種子島に残された豊かな民俗芸能を記録し、次世代につないでいくことを図っていきたいと考えています。

今年度は、明治維新150周年、そして種子島宇宙センター50周年を記念した企画展を開催いたしました。この企画展を契機に、才川周右衛門日記の一部が再発見され、地元高校生らによる解説、研究につながったのは大きな成果と言えるでしょう。また、本号の研究報告では、50年前に種子島宇宙センターが出来たことで消滅した大崎集落出身の椎木権吾さんから聞いた昔話を紹介しました。この昔話も、種子島宇宙センターと南種子の関わりを考える上で、参考となるだろうと考え、収録した次第です。ご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、本館の運営につきまして、多くの皆様方のご支援とご協力をいただいておりますことに、心より感謝いたします。今後とも皆様方のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月29日

広田遺跡ミュージアム 名誉館長 下野 敏見

目 次

はじめに

第 1 章 館の概要

第 1 節 館の概要と組織P1 ～ P3

- (1) 館職員数内訳
- (2) 館職員名簿
- (3) 館職員事務分掌
- (4) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

第 2 節 利用状況P3

第 2 章 館の事業

第 1 節 展示P4

- (1) 企画展
- (2) イベント

第 2 節 教育・普及啓発P5 ～ P7

- (1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員
- (2) たねがしま古代塾
- (3) 広田遺跡ミュージアム講座
- (4) 出前講座
- (5) 研修等

第 3 節 管理・運営P7 ～ P9

- (1) 広田遺跡語り部の会
- (2) 視察
- (3) その他

第 4 節 調査・研究P9

- (1) 調査・研究
- (2) 研究報告

「南種子町茎永（種子島）の昔話」

広田遺跡ミュージアム名誉館長 下野敏見

写真図版P16

第 1 章 館の概要

第 1 節 館の概要と組織

(1) 館職員数内訳

平成 30 年度

役職	専任（正職）	兼任（正職）	非常勤	専任（契約職員）	計
名誉館長			1		1
館長		1			1
学芸員	1	1			2
庶務係長		1			1
学芸員補				2	2
合 計	1	3	1	2	7 人

※上記の他、語り部を 1 日 1 名雇用している。

(2) 館職員名簿

役職	平成 30 年度
名誉館長	下野敏見
館長	松山砂夫、社会教育課長兼務
副館長	館長兼務
学芸員（専任）	石堂和博
学芸員（兼任）	小脇有希乃（町埋蔵文化財センター学芸員兼務）
庶務係長（兼任）	才川いずみ（文化係長兼務）
	牛野夢美
学芸員補（庶務）	有留理沙

(3) 館職員事務分掌

役職	氏名	主な職務分掌
名誉館長	下野敏見	博物館事業に関する助言
館長	松山砂夫（社会教育課長）	館の運営管理の総括に関すること
副館長	松山砂夫（社会教育課長）	館長職務の補佐
学芸員（専任）	石堂和博	常設展示・特別展示に関すること 資料の収集・保管に関すること 重要文化財の保管に関すること 館報・図録その他刊行物の作成に関すること 専門的調査・研究に関すること 普及啓発・講座・広報等に関すること 運営協議会に関すること 史跡公園の管理に関すること 体験学習に関すること 他の施設、学校等との連携に関すること
学芸員（兼任）	小脇有希乃	普及啓発・講座・広報等に関すること
庶務係長（兼任）	才川いずみ（文化係長）	予算の編成執行に関すること 館の管理に関すること 予算経理、ミュージアムショップその他 庶務の総括に関すること
学芸員補（学芸）	牛野夢美	普及啓発・講座・広報等に関すること 資料の収集・保管に関すること 館、史跡公園の案内業務に関すること 受付・観覧料等の徴収に関すること
学芸員補（庶務）	有留理沙（4月～12月） 河野綾音（1月～3月）	受付・観覧料等の徴収に関すること 予算経理、ミュージアムショップその他 庶務に関すること 館、史跡公園の清掃及び管理に関すること 体験学習に関すること
語り部	長田君應ほか7名	館、史跡公園の案内業務に関すること 館、史跡公園の清掃及び管理に関すること

組織図

館長－副館長－学芸員（専任）－学芸員（兼任）－学芸員補（学芸担当）
 庶務係長（兼任） －学芸員補（庶務担当）
 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会、名誉館長

(4) 南種子町広田遺跡ミュージアム協議会

○委員名簿

役 職	平成 30 年度		
会 長	長田 忠	副会長	柳田 和則
委 員	日高 友典、岩澤 昭文		

○平成 30 年度 南種子町広田遺跡ミュージアム 協議会

開催日：平成 30 年 6 月 1 日 (金)

場 所：南種子町埋蔵文化財センター 体験学習室

協議内容

- ・入館者等状況、平成 29 年度事業実績、平成 30 年度事業計画、運営計画、重要文化財等

第 2 節 利用状況

①入館者数

平成 26 年度 2,429 名 (町内 1,268 名、町外 1,161 名)

平成 27 年度 11,225 名 (町内 3,064 名、町外 8,161 名)

平成 28 年度 7,226 名 (町内 1,899 名、町外 5,327 名)

平成 29 年度 7,520 名 (町内 1,619 名、町外 5,901 名)

②体験学習利用者数

平成 27 年度 981 名、350,500 円

(初級 775 名 232,500 円、中級 176 名 88,000 円、上級 30 名 30,000 円)

平成 28 年度 805 名 340,600 円

(初級 402 名 120,600 円、中級 366 名 183,000 円、上級 37 名 37,000 円)

平成 29 年度 699 名 275,100 円

(初級 442 名 132,600 円、中級 229 名 114,500 円、上級 28 名 28,000 円)

③書籍販売

平成 27 年度 売り上げ：53,500 円

(郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 6 冊、南種子の民俗 9 冊、南種子の民具 6 冊、南種子の文化財 6 冊、南種子の文化財 21 冊)

平成 28 年度 売り上げ：34,000 円

(郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 2 冊、南種子の民俗 7 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 6 冊、南種子の文化財 18 冊)

平成 29 年度 売り上げ：31,500 円

(郷土誌 4 冊、広田遺跡報告書 3 冊、南種子の民俗 5 冊、南種子の民具 2 冊、南種子の文化財 8 冊、広田遺跡ミュージアム館報 3 冊)

第2章 館の事業

第1節 展示

(1) 企画展

企画展：明治維新 150 周年記念企画展「明治時代の南種子」

期 間：平成 30 年 7 月 21 日～10 月 14 日

内 容：明治維新 150 周年を記念し、鹿児島県より地域振興推進事業の補助を受け実施したもの。パネル展示は、「幕末・維新」、「砂坂孫左衛門の碑・吉助橋」、「ドラメルタン号漂着」、「明治の学校教育」の 4 つのテーマで行い、才川周右衛門関係資料や学校関係資料などを展示。また、「種子島宇宙センターと南種子」の企画展とあわせて図録も刊行している。

企画展：種子島宇宙センター 50 周年記念企画展「種子島宇宙センターと南種子」

期 間：平成 30 年 10 月 21 日～平成 31 年 2 月 24 日

内 容：種子島宇宙センター 50 周年を記念し、鹿児島県より地域振興推進事業の補助を受け実施したもの。パネル展示は、「大崎集落の移転」、「ロケットの打ち上げ」、「ロケットのまちへ」、「未来へ」の 4 つのテーマで行い、関連資料も展示。また、「明治時代の南種子」展とあわせて図録も刊行。

(2) イベント

○GW 特別イベント「むかしのこどもの遊び体験」

期 間：平成 30 年 5 月 3 日（木）～5 月 5 日（土）

場 所：体験学習室

体験料：無料

内 容：竹をつかった昔の遊びと、昔の鳥を捕まえるワナの体験などをおこなった。今年度は新たに紙芝居（新太の鴨とり）も実施。

○4 周年記念イベント 広田遺跡語り部の会 主催

「広田の岩穴焚き」

期 日：平成 31 年 3 月 10 日（日）13 時 30 分～16 時 00 分

場 所：広田の岩穴（国史跡広田遺跡公園近く）

参加料：無料

内 容：時折、強い雨の降る曇り空であったが、ジュニア学芸員を中心に 50 名ほどが参加。岩穴焚きだけでなく、紙芝居、縄ない体験、蒸し芋体験なども実施した。

第2節 教育・普及啓発

(1) 広田遺跡ミュージアム ジュニア学芸員

ジュニア学芸員は、小学校2年生～高校3年生までを対象に、種子島の歴史・文化・自然を学んでいただく教育・普及啓発事業である。所定の課程を修了した受講生には、ジュニア学芸員修了証を発行している。

ジュニア学芸員の人数

	小学生	中学生	高校生	合計
平成26年度	19	5	0	24人
平成27年度	21	6	0	27人
平成28年度	28	8	1	37人
平成29年度	27	3	0	30人
平成30年度	53	0	0	53人

平成30年度活動

第1回 平成30年6月17日(日) 開校式 昔の遊びを体験しよう！

講師：田淵川サナエ(広田遺跡語り部の会)

第2回 平成30年7月15日(日) 広田川で遊ぼう、学ぼう！海・川の生き物と化石

講師：長田隆幸、平島強(広田遺跡語り部の会)

第3回 平成30年9月2日(日) 古代ガラス玉づくり体験

講師：小脇有希乃(南種子町教育委員会学芸員)

第4回 平成30年10月21日(日) 宇宙芸術をしよう！「地上の星をつくろう」ワークショップ

講師：渡辺望(種子島宇宙芸術祭アーティスト)

第5回 平成30年11月18日(日) 種子島宇宙センター50周年記念特別講座「宇宙を体験する」

講師：森本記心(種子島宇宙芸術祭アーティスト)

第6回 平成30年12月16日(日) 種子島宇宙センター50周年記念特別講座「空想科学を一緒に楽しもう」

講師：柳田理科雄(空想科学研究所)

第7回 平成31年2月17日(日) 「宇宙からみる雨をみる」

講師：古川欣司、青木隆修、山地萌果(JAXA 第一宇宙技術部門)

第8回 平成31年3月10日(日) 閉校式 広田の岩穴焼き＆昔の焼き芋体験をしよう！

講師：広田遺跡語り部の会

(2) たねがしま古代塾

たねがしま古代塾は、地域の歴史を学び、文化財等の大切さをすることを目的として、塾長に鶴田静彦氏（西野小学校校長、前鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター調査課長）を迎え、平成26年度から開講し、以下の活動を行ってきた。この講座の受講生の中から、広田遺跡語り部の会に加入した方もいて、着実に成果をあげている。

平成30年度

第1回目 開校式・特別講座『(一) ガロー山とは (二) 広田遺跡人は草履を履いていたか?』

講師 広田遺跡ミュージアム 名誉館長 下野敏見 先生

6月10日(日) 9時30分～11時00分 場所 広田遺跡ミュージアム体験学習室

第2回目 明治維新150周年記念『民俗学的にみた西郷どんの生きた時代』

講師 鶴田静彦 先生

7月 9日(日) 13時30分～15時30分 場所 広田遺跡ミュージアム

第3回目 JAXA50周年記念『宇宙から見る雨、水』

講師 JAXA DPR 主任開発者古川欣司 先生

(株)ユニケミー濱地清市 社長 ほか

9月 8日(土) 9時30分～11時30分 場所 種子島宇宙芸術祭インフォメーションセンター他

第4回目 明治維新150周年記念『明治時代のまちあるき』

講師 石堂和博(広田遺跡ミュージアム学芸員)

10月21日(土) 9時30分～12時00分 場所 町内各所

第5回目 JAXA50周年記念「種子島宇宙センターと南種子」

講師 園田昭真 先生(町教育委員)、本田静 先生(県着地型観光推進協議会主宰)

11月22日(木) 18時30分～20時30分 場所: 南種子町中央公民館第一会議室

第6回目 JAXA50周年記念『空想科学講座 未来は今から始まる』

講師 柳田理科雄 先生(空想科学研究所)

12月16日(日) 13時00分～15時00分 場所: 南種子町中央公民館第一会議室

第7回目 明治維新150周年記念「明治150年-人と自然の近代史-」

講師 松田度先生(奈良女子大学大和・紀伊半島学研究所)

2月27日(水) 18時00分～19時00分 場所: 広田遺跡ミュージアム体験室

(3) 広田遺跡ミュージアム 講座 (平成 30 年度)

- ・特別講座『(一) ガロー山とは (二) 広田遺跡人は草履を履いていたか?』

講師 広田遺跡ミュージアム 名誉館長 下野敏見 先生

6 月 10 日 (日) 9 時 30 分～ 11 時 00 分 場所 広田遺跡ミュージアム体験学習室

(4) 出前講座

- ・島間地域教材研修 (島間小学校)

8 月 1 日 (水) 講師 石堂 和博 (広田遺跡ミュージアム学芸員)

- ・滋賀県守山市 下之郷遺跡 「弥生の夜話会」

9 月 25 日 (火) 講師 石堂 和博 (広田遺跡ミュージアム学芸員)

- ・下中高齢者学級 島内史跡巡り

11 月 21 日 (水) 講師 石堂和博 (広田遺跡ミュージアム学芸員)

- ・南種子中学校「職業人講話」

1 月 24 日 (木) 講師 石堂和博 (広田遺跡ミュージアム学芸員)

- ・種子島中央高校「種子島歴史自然研修講座」

1 月 28 日 (月) 講師 石堂和博 (広田遺跡ミュージアム学芸員)

他、町内小・中学校等への出前講座実施

(5) 研修等

- 職員研修 (平成 30 年度)

名称・主催:「文化財保護行政担当職員研修会」県教育庁文化財課

日時・場所:平成 30 年 5 月 10 日 研修参加者:石堂和博 (学芸員)

名称・主催:「鹿児島県博物館協会職員研修会」

日時・場所:平成 31 年 1 月 23・24・25 日 研修参加者:牛野夢美 (学芸員補)

第 3 節 管理・運営

(1) 広田遺跡語り部の会

広田遺跡語り部の会は、広田遺跡の発掘に実際に参加したり、発掘に参加した方の子孫であったり、たねがしま古代塾に参加し、島の歴史に興味をもったりした方など、10 名で結成した広田遺跡のサポーターである。館がオープンする前の、平成 26 年 12 月に結成され、それから 3 ヶ月間活動をした後、平成 27 年 3 月の館オープン以降は、広田遺跡語り部として展示案内などの館活動に参画している。

- 広田遺跡語り部の会 会員 名簿

会長:長田君應、副会長:向井良隆 監事:平畠強・峯山弘子、会員:長田隆幸、佐伯圭子、田淵川サナエ、兵藤幸夫、名誉会長:原南海雄、顧問:羽生源志

○平成 30 年度の活動内容

- 4 月 19 日 歓送迎会 松山課長、高田参事 島宿 HOPE
- 4 月 22 日 月例ボランティア 館周辺草刈り、草抜き、GW 計画等
- 5 月 17 日 月例ボランティア 館周辺草刈り、草抜き
- 6 月 26 日 島内バス研修 西郷どんの頃の南種子町・中種子町とガローをまわろう！
- 7 月 11 日 月例ボランティア 館周辺草抜き、定例会
- 8 月 8 日 月例ボランティア 東屋塗装作業
- 9 月 5 日 月例ボランティア 館周辺草抜き、定例会
- 9 月 22 日～27 日 研修旅行 鹿児島ー大阪ー京都ー奈良ー滋賀
- 10 月 9 日 月例ボランティア 館周辺草抜き、定例会
- 11 月 13 日 月例ボランティア 館周辺草抜き、定例会
- 11 月 29 日 井戸掘り 長田（君）、長田（隆）、平畠、石堂、原南海雄、長田睦郎、
長田新一郎、原晃一、鎌田隼人
- 12 月 18 日 月例ボランティア 門松作り、定例会
- 12 月 18 日 忘年会 語り部の会、長田新一郎、原晃一さん他 広田公民館
- 1 月 20 日 月例ボランティア 定例会
- 2 月 16 日 月例ボランティア 公園通路の小石（敷石）、定例会・河野さん歓迎昼食
会
- 2 月 27 日 懇親会 奈良県大淀町 ボランティアガイドグループとの交流会 島宿
HOPE
- 2 月 28 日 交流会 奈良県大淀町 ボランティアガイドグループとの交流会 島内研修
- 3 月 4 日 月例ボランティア 岩穴焚き準備
- 3 月 10 日 ジュニア学芸員 岩穴焚き 岩穴焚き・焼き芋体験
- 3 月 28 日 総会・送別会（牛野夢美・河野綾音） なべ割

○広報

- ・番組名「National Geographic Abu Dhabi」FOX Networks Group,Middle East
(UAE の人工衛星を JAXA が打ち上げたことに伴い UAE で放送された特番で広田遺跡
ミュージアムが紹介された。)
- ・神奈川県平塚市博物館 企画展示「潮風と砂の考古学」及び同展示会図録にて広田遺跡
紹介
平成 30 年 12 月 1 日～2 月 17 日
- ・書籍「いまこそ知りたい縄文時代」瀧音能之監修 宝島社 にて広田遺跡紹介
- ・国立歴史民俗博物館常設展示リニューアルに伴い「広田遺跡」を紹介
- ・町広報紙で毎月「広田遺跡ミュージアム便り」を連載
- ・広田遺跡語り部の会によるフェイスブックでの情報発信

○文化財の保存・管理

重要文化財の運搬

広田遺跡は、H-Ⅱ A 及び H-Ⅱ B ロケットの警戒区域に設定されているため、文化庁美術学芸課の指導により、ロケットの打ち上げの際に重要文化財を南種子町立埋蔵文化財センターに搬出することとなっている。

平成 30 年 6 月 11 日 (月)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 30 年 6 月 12 日 (火)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 30 年 9 月 22 日 (金)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 30 年 9 月 23 日 (日)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂
平成 30 年 10 月 28 日 (日)	ロケット打ち上げに伴う搬出	対応：石堂
平成 30 年 10 月 29 日 (月)	ロケット打ち上げ終了に伴う搬入	対応：石堂

第 4 節 調査・研究

(1) 調査・研究

平成 30 年 6 月 2 日～3 日	科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）「研究会」 場所：熊本大 学研究会参加者：石堂和博、小脇有希乃
平成 30 年 7 月 4 日	科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授） 「高椋、足立先生による現地調査」 調査対応者：石堂和博
平成 30 年 10 月 8～10 日	科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）篠藤マリア先生等による 現地調査 調査対応者：石堂和博・小脇有希乃
平成 31 年 1 月 11 日～13 日	科学研究費「3～7 世紀の琉球列島における人と文化の交流史研究」木下尚子（熊大教授）「沖永良部島土器調査」 調査実施者：石堂和博

(2) 研究報告

「南種子町荃永（種子島）の昔話」

広田遺跡ミュージアム名誉館長 下野 敏見

今回は、南国種子島に舞台を移して、じっくり昔話を聞くことにしよう。鉄砲伝来の種子島は歴史の島であるが、民謡や芸能、昔話などたくさん伝えられ、文化の島でもあるのです。

今回の昔話の語り手、^{しい き こん こ}椎木権吾さんは、明治33（1900）年、今の種子島宇宙センターのある荃永の大崎集落に生まれました。

十二、三歳ごろから昔話に興味をおぼえ、十七、八歳ごろまで近所となりや各地の人たちから聞いた。昼間の仕事ですむと、一里もはなれた平山や荃永の中目などへも聞きに行ったという。

氏の存在を知ったのは、1963年当時、筆者がつとめていた中種子高校の生徒、椎木三男君の紹介によるものでした。では、さっそく語ってもらいましょう。

第一話 カラスとタカ

えーと、昔はな、カラスもタカもまっ白い鳥じゃったそうじゃ。そいで、カラスがいうに、「タカ、こんな白か羽根じゃいけんから、よか模様を塗ることにしよう。お前は、おれが羽根を塗れ。おれはお前の羽根を塗ってくるいが」というて、相談して、塗りいうたったそうじゃ。

カラスは正直者で、タカの羽根をきれいに塗って、りっぱに仕上げたそうじゃ。

とこいがタカは少し^{おうちやくもん}横着者で、カラスに墨をぶっかけて真っ黒にしてしもうたそうじゃ。

そしたらカラスが怒って、「こがぁな真っ黒に塗るちゅうがあるか」と叫んで、飛びかかって行ったそうじゃ。

それからというもの、カラスはタカを見つけては、突くじってこらしめるようになったそうじゃ。

カラスは速かもんじえ、高い空からすーと降りていってタカに飛びかかるのじゃなあ。

こうして、タカはカラスに追われて難儀する鳥じゃそうじゃ、そしこのむかーし。

※ ※ ※

この話を権吾さんは、近くの大崎徳次郎さん(昭和三十五年、八十六歳で亡)かた聞いたという。

第二話 ツバメとカモ

ツバメはなあ、遠い南の国から渡って来るそうじゃ。そのとき、カモはなあ、遠い北の国からやってくるそうじゃ。そして日本の空でツバメとカモは行き交うそうじゃ。

カモは飛び、潮に泳げばもう、潮から取られて、いっこうに^{なだ}灘をこえることができないと。潮があっちい行けば、あっちに行く。こっちいければこっちにくる。

そうして潮から取られてどうもいけんもんじゃから、困っておるわけじゃな。

そのとき、ツバメがすーと降りてきてなあ、カモをおどかすそうじゃ。するとカモは空さな飛びあがって、また飛ぶのじゃなあ。

そしてまた疲れて泳げば、潮から取られて、体はあっちい行き、こっちい行きしておそかとじゃなあ。

そのとき、また別の行き交うツバメが降りてきて、カモを突つこうと、おどかすのじゃなあ。するとカモはまた元気が出て飛びあがり、南の空へと飛びつづけるわけじゃなあ。

そいで、病人でいえば、ツバメは灘^{なだ}わたりの医者どんじゃっど。カモの灘^{なだ}わたりを助ける医者どんじゃっどとなあ。こういう話じゃ。もこしこ。

第三話 アマガク

アマガク（雨蛙^{あまがえる}）というカエルは親不孝な奴で、親父^{おやじ}が死ぬ時に、「おらあ（俺は）、雨が降った時に流れてはいけんから、川のそばに埋めんでくれ。」というていたけれども、川のそばに親父^{おやじ}を埋めたそうじゃ。

しかし、やっぱい、息子じゃから心配するわけじゃな。雨が降れば、「親父^{おやじ}は、川のそばには埋めるな。雨に流れん所に埋めろというたが、しかし、あがん川^{あかんがわ}の脇に埋めたが、流れはせんだろうか。」と思うて、ガクガクガク、ガクガクガク、と鳴くのだそう。雨がつけばまた、ガクガクガク、ガクガクガクと、いつまでもな。

第四話 舌切り雀

ある所に爺さんと婆さんが住まっておられたちゅう。ところが、子供がなくて、爺さんは雀をば大事^{だいじ}にして、いつも雀に食わせる分は惜しまずに食わせておったと。

ところが婆さんは、はんきい出して（怒って）、「おいの海草^{のり}を雀が食うたが」、こういうて、雀をつかまえて、舌を切ってくれた、と。

そしたとこいが、雀はもう来んようになったそう。そいで、爺さんは舌切り雀を尋ねて歩くとこいじゃ。「婆さんが悪かった。ああいうことをするもんじゃなか。」こういうて、たいちえー（たいそう）訪ね歩いて、とうとう探し出したそう。

とこいが、雀という鳥は、なかなか人思いのよか鳥でもあって、また、爺さんのそばに寄ってきたそうじゃ。「婆はもう、はんきい出あちえは（怒っては）おらんから、安心せー」というたそう。

そして雀はどこかへ飛んで行ったそう。

そしたや、婆さんは婆さんで、「おれがねぎって（叱って）雀の舌を切るちゅうことがあいもんか。はよいっき（すぐ）雀にことわり（おわび）をいわんばじゃ。雀がまた出てくれば、いっきうど」というたそうじゃ。

ほうしたとこいが、雀はそれをどこかで聞いていたのか、こんだあ（今度は）わざわざよか支度^{しど}（したく）をしてきれいな雀になって、婆さんの近くにやってきて、「婆さん、海草^{のり}を食うた俺がわるかった」というたそうじゃ。も、こしこんむかし。

第五話 ニワトリ

ニワトリという鳥は大昔からいて、人に仕^{つか}えている鳥じゃと。

ところがあるとき、天の岩戸^{あま いわ と}という所^{ところ}に天照大神^{あまてらすおみ}がおかれになって、その時からやっぱりニワトリがおって、じゃったそうじゃ。

そんとき天の岩戸のなかにおかれになったもんじえ、そのニワトリをばやったところが、「夜

があけたあ、夜があけたあ」ちゅうちえ、まあ、歌うたろうじゃ。ニワトリがなあ。

そうしたとこいが、天照大神^{あまてらすおおみかみ}が、ちいっと岩戸をあけようとされたそうじゃ。

そのとき、手力男^{てぢからお}の命^{みこと}という神様が、岩戸のすきまに手をつつこんで、ガサとあけたそうだ。

ほうしたや、世間がいっぺんに明るくなったそうじゃな。

そいでニワトリは位^{くら}の高い鳥で、あんまりたくさん飼うて、そまつにすると、ろくなことはないといわれておる。神様の時代からおる鳥じゃからな。

第六話 アリ

アリは非常に心がけのよい、熱心に働く生きものじゃと。

そこじえ、夏、あったかうちに、冬の間の自分の食いものをば、ひと所に寄せておくという
とこいじゃ。

そして団体を組んじえるそうじゃ。その団体のうちに大將がおって、「おい、こらこら、どこ
どこはどうしなさい」というたぎりゃあ、必ず大將のいうとおりに守っちなあ。

そうして、その食いものを集めておくと。

そいで、わざい（たいそう）、念がけ（心がけ）のよい、つよい虫じゃと。そして、団結心が
つよく、みんないっしょに暮らすのじゃと、こういわれるのじゃ。

第七話 モグラ

あるところにモグラがおったそうじゃ。モグラは、昔は世上^{せじょう}（世の中）に出て歩く動物じゃっ
たそうじゃ。

とこいがあるとき、非常に悪いことをして、「おまえは、ぜったいに明^{あか}りに出すことはできん。」
と、畜生^{ちくしょう}の大將がいうたそうじゃ。モグラは、「よか、おら、地駄^{ちだん}ん底じえ、何でも探して食うから、
不便なことはなか」と、こういうたそうだ。すると、大將が、「うん。そうか。方^{まん}が一^{いち}、世上^{せじょう}に
でたぎり、お前はいぶり殺^{ころ}さるんどう。覚悟しておけ」と。

「よか。もう仕様^{しやう}はなか。自分が悪^{わる}かことをしちえじゃから。」

というたそうだ。そいで、モグラは地駄^{ちだん}ん底からはい出て、お日様にどん腹、見せたきりいあ、
もうすぐ死ぬものじゃと。こしこの話。

第八話 コイとフナ

コイも人間、フナも人間じゃったそうじゃ。

とこいが、コイは今のお母さんの直^{じき}の子、フナは継子^{まきこ}じゃったそうじゃ。

とこいがある時、お母さんが死んで、どちらも親^{うし}を失うた、と。そしたら、フナがコイに
向^{むか}っていうことは、「お前は、おっかんがおっとときには、おれをばどんだけいじめたか。じゃか
ら、お前を噛^かみ殺す」と。

それで、今も、コイがどこか遊びに行たちよれば、フナがついて行って、「どけ」とか、「くんな」
とか、「噛^かみ殺す」とかいうて、仇^{かたき}にするそうじゃ。

じゃから、やっぱり、コイにまで、フナにいたるまで、直^{じき}の子とまま子とあって、仇^{かたき}じゃと、
こういう昔じゃ。も、こしこ。

第九話 エビナ（川エビ）

昔エビナが川で大将をつとめ、あちこち泳ぎまわり、海にも行ってまた大将をしてあちこち泳ぎまわったそうじゃ。

主は（エビナは）、暮らしがよいから大仰（^{おおぎよう}おおげさ）にかまえて、川に来ちゃあいばり、海に来ちゃあいばりしたそうじゃ。

そいで、こんどは海の魚（^{うお}うお）たちが、「わごう（お前は）もう、川の大將じゃから川にもどれ。もう海に来んな。」

こういえば、「えー、そいじゃあ、おらあ、川さな行く」というて、川に行ったそうじゃ。ところが川に行くと今度は川の魚たちが、「わごう、海の大將じゃろうが。はよ、海さな行たて暮らせ。」

こういうたそうじゃ。川には川の法があり、海には海の法があるが、エビナは大将だというてどっちの法も守らじい、いばっておったそうじゃ。そいじゃ、エビナは、しまいには川にも海にも暮らせなくなって大困りした。そこで、エビナは川の魚たちに「もう、これからいばらんから許してくれ。」とわびたそうじゃ。そこで許されて、川にすむようになったちゅうはなしじゃ。そしこんむかし。

第十話 亀（^{かめ}うお）の魚

亀（^{かめ}うお）の魚（海亀）がなあ、陸（^{おか}おか）にあがって猿と遊びおったそうじゃ。そうしたとこいが、猿がいうに、「竜宮の宝物のある所に案内してくれ。そうすればお前には、大変よか物をくるっ」と、こういうて、亀をだましたそうじゃ。

亀は、そいじゃあと思って、猿を竜宮に連れて行ったそうだ。ところが、猿がまっさきに竜宮のよか物を取ったと。そして猿が「早よ、戻（^{もど}もど）れ。亀」というもんで、亀は猿を背にのせて、陸（^{おか}おか）に連れもどしたそうじゃ。

そいから、また亀は竜宮に行くと、乙姫さまが出てこられて、「亀の魚、わごう（お前は）、陸（^{おか}おか）から猿を連れて来て、竜宮の宝物を盗んで行ったな」といわれたそうじゃ。亀は、「おらあ（おれは）盗らんばっちえ、猿が盗（^{ぬす}ぬす）った」というたそうじゃ。「なっしえ（どうして）そんな悪い者をつれてきて、竜宮の宝物を盗（^{ぬす}ぬす）らせたのか」そんな悪いことをしたからには、お前は勝手に海（^{うみ}うみ）で子を産むことは許さん。もう、これからはお前はかちい（陸に）行たて、子を産め。海で子を持たすることはでけん」といわれたそうだ。そしてまた、「わが一（^{りく}りく）な（お前には）海では息もさせん」といわれたそうだ。

それで、海亀は陸（^ああ）に上（^ああ）がって、砂の中に卵を産むときは、息をはあー、はあーいわせながら、涙を流して産むのだそうだ。

第十一話 大蛇と七人の娘

あるじいさんが、娘を七人持っておったそうじゃ。ところが、まあ昔のことじゃー、非常に可愛（^{かわい}かわい）がっておる子をば一人、大蛇が食うたそうじゃ。

そいからだんだんを聞いてみると、口が七つある大蛇で、とてもかんたんに殺しもならず、その人も大変こまっておったそうじゃ。

そこで今度、そのじいさんが、作戦（^{さくせん}さくせん）を考えて、いよいよ残りの自分の子を食べるよりも、

じいさんがだいじにしている^{もったい}勿体ない酒をば、飲ませてみようと、こういふとこいでその、七つの口がある大蛇じゃから、一つひとつ、七つの桶に入れて飲ませてみようと、そして、大蛇が飲むか飲まんか知らんばっちえ、^{たる}樽の口をあけて、七つの桶に入れて待っていたそうじゃ。

とこいが、大蛇はやってきたと。娘を欲しか顔をすんもんじゃから、娘はかくして酒を入れた七つの桶を出すと、それをゴーン、ゴーン、飲んだと。

そしたところが酔っぱろうて、蛇はもう、すーん、すーんと眠ってしもうた、と。

そのとき、じいさんは家に^{だいじ}大事にしまってた何とかいう剣で、大蛇の腹を切ったと。すると、先に飲まれた娘が出てきたそうじゃ。すると不思議に娘は生き返ったそうじゃ。

それで、まあ、あと六人の娘も助かったという話じゃなあ。もう、こしこのむかーし。

第十二話 イガ泣き

なにがむかし、ある所にシカを鉄砲ん玉で射っちえ、その肉をば売って、生活をしおる男がおったてーや。

そして、その男は今年の何月頃か、奥さんを迎えちよったいば、^{おおはら}大腹じゃったと。

大腹でも、自分は商売をするもんで、その日も、奥山に行たて鹿を^{ねろ}狙うちよったと。

ところが、その日は鹿が通らんじい、椎の木の根元に、ようっと寝て眠っておった、と。ところが^{みよう}妙な者が通りかかって、「椎の木どんよ。お前^{まや}あ。イガ泣きを聞きに行かんかい」というとこいやつと。「おらあ、今夜は、鹿射ちどんが泊まっておるから、まあ、行きがならんよう。わがあ（あんたが）、よかごと聞いてこい」と、こういうたそうだ。

そうして、いつときしたら、「椎の木どん、今じゃったー」という声がした、と。「どういふイガ泣きじゃったか」ちゅうたいば、「そん子は七ついなる時い、川に入って死ぬるというイガ泣きじゃった。わざい、まあ、ごうらしなげー（可哀想に）」というた、と。

椎の木の根元にいた鹿打ちどんは、「こら、妙なことじゃ。おれのカカも大腹じゃったが、自分の子が生まれて、そのイガ泣きじゃあるまいか」と思うて、その男は夜明けを待った。鹿は夜明けになると、走って歩くので、それを射つのであったが、鹿射ちは止めて、急いで家に戻ってみた^{あん}とこいが、案の定、赤子が生まれておったと。

そこで、鹿射ちどんは、じいさんにもこれこれしかじかじゃった、気をつけねばならない、と話したそうだ。

そして、いよいよ七つになった時、その子が、「どうしても川に遊びに行かんばじゃ、どうしても行く」といつてきかなかったそうだ。

そしてお父さんが、「お前も、いつときまあ、そけえ、寝ころんでみらんか。もう、なんじゃかんじゃ（何やかんや）んまかもんも食たから、いつとき、寝てみようよ」ちゅうて、お父さんは何か手仕事をしながら油断はせずに見張っていたそうだ。

その子は、座敷にうつぶせに眠っていたが、あんまりよく眠っているの、「こら」と起してみたところが死んでいた。自分の小便で、川という字を書いて、真ん中の線に鼻をくっつけて死んでいた、と。

そいで、やっぱり、川に行かずとも、イガ泣きからはのがれられんのじゃと。

主（その子）が、川という字をどこで習うたかしらんが、その川という字の真ん中のところ

に鼻をついてじゃな、死んでおったそうじゃ。

そいで、父もカカもじいさんも。大へんなげいたという話じゃ。こしこんむかし。

☆ ☆ ☆

以上、十二話、榎木権吾^{しい き どん こ}さんに昔話を語っていただきました。権吾^{どん こ}さんに会ったのは初めてであったが、すらすらと、話がでてきたのでした。いや、その日はまだほかにもいくつも話してくださったのでした。

ほんとうに、昔話を入れた袋があって、そこから次々に取り出して話してくださるあんばいでした。

ところで権吾^{どん こ}さんの今回の昔話は、カラスとタカ、ツバメとカモ、アマガク（雨蛙）、舌切り雀、ニワトリ、アリ、モグラ、コイとフナ、エビナ（川エビ）、亀（かめ）の魚（うお）（海亀）、大蛇と七人の娘、イガ泣きの十二話でした。

以上は、聞いたような話もあるが、今回初めての話が多かったのではないのでしょうか。

日本の昔話は、このような動物昔話と人間昔話、笑い話など、大きく三つの分野で語られています。

ラジオやテレビがはやる以前までは、口承文芸としての昔話は、大事な娯楽の一つでした。親が子に語り、あるいはじいさんやばあさんが村の少年少女たちに語るなどして、語り伝えてきたのです。

その語り手たちは、昭和 40（1965）年頃から昭和 50 年頃までは、まだあちらこちらに残っていましたが、もうそれが最後の灯ともいうべく、そのあとはなくなりました。

そして今では、本で読んだり、テレビ昔話を見たりしています。また、各地に新しい語り部たちの会ができて、本から仕入れた昔話を語ったり、紙芝居をして語ったりしています。本書の今回の十二の昔話は、いずれも短い話ですが、味わいのある話です。また、面白かったのじゃないのでしょうか。

これからは、50 年前に権吾^{どん こ}さんが語ってくださった録音テープを、家内が再生記録してくれ、それを筆者が清書したものです。わずかこれだけの昔話にも、秘められた話があったのです。

写真図版 1



写真 1 GW 昔のあそび体験



写真 2 ジュニア川の生き物講座



写真 3 ジュニア海の生き物講座



写真 4 ジュニア植物講座



写真 5 語り部ボランティア清掃



写真 6 語り部研修旅行明日香村



写真 7 ジュニア宇宙芸術講座



写真 8 シュテルバ先生との共同研究

写真図版 2



写真 9 JAXA 古川先生特別講座



写真 10 ユニケミー濱地先生特別講座



写真 11 ユニケミー濱地会長による井戸のサンプリング



写真 12 ジュニア空想科学講座



写真 13 ジュニア JAXA50 周年講座



写真 14 渡辺さんによる宇宙芸術特別講座



写真 15 松田度先生による講座

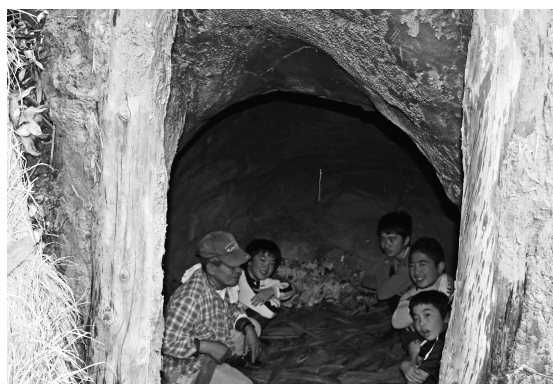


写真 16 岩穴焚き

広田遺跡ミュージアム館報 第3号

発行日 平成31年3月29日

編集・発行

広田遺跡遺跡ミュージアム

〒891-3702 鹿児島県熊毛郡南種子町平山 2571

TEL 0997 (24) 4811

印刷所

(株)種子島新生社印刷

〒891-3101 鹿児島県西之表市西之表 16736 番地 1

TEL 0997 (22) 0476

BULLETIN OF HIROTA SITE MUSEUM

Volume 3

March 2019

MINAMITANE TOWN HIROTA SITE MUSEUM